



## 倉重 佑輝

神戸大学システム情報学研究所 准教授  
(前 理論・計算分子科学研究領域 助教)

## 岡崎の思い出

くらしげ・ゆうき／2008年東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻博士課程 修了、同年4月より分子科学研究所理論・計算分子科学研究領域助教、2016年4月より現職。

ちょうど今朝がた今年が一番ゼミが新居のある六甲山麓に夏の訪れを告げておりました。岡崎を離れてまだ3ヶ月と少し、実感としては「長期滞在が何かで一時的に岡崎を離れているだけ」といったトボけた感じでおりましたが、本稿を書いていて本当に「分子研を去る」のだなという現実が少しずつ胸に沁みて参りました。

分子研には理論第一部門の柳井グループの助教として2008年4月に着任しました。博士課程の研究に目処がついていた（と自分では思っていた）事もあり、前年の秋には明大寺と山手のちょうど中間あたりにあったアパートを1ヶ月間借りて、共同利用研究員として柳井先生との研究をスタートさせました。学生には手痛い出費ではありましたが、新たな電子相関理論の研究を始められるという世界的にも数少ないチャンスを得たとあって、この6年（結局8年）に自分の全てをかけるぞと胸を高ぶらせていたのだと思います。当時の柳井先生も米国での武者修行を終えて研究室を構えたばかりで、これからの新しい量子化学を日本で興そうという気概に満ち満ちており、2人でなんでも出来るそんな雰囲気だったと記憶

しています。

その後も、本稿では全く書ききれませんが周りの方々に恵まれて色々な形でサポート頂き、分子研では本当に充実した研究人生の時を送らせて頂きました。そのまま楽しい楽しいで走り続けていたら、気付けば自分も当時の柳井先生の年齢をついに超え、そろそろ「世から貰う」ばかりでなく「世に返す」ことも考えなければならない時期に来たのだらうと思います。まだ未熟で与えて貰うことの方が多い若輩者ですが、この転出を期に自分なりに何ができる

のか考え、出来れば熱い思いをもった若人と一緒にまた分子科学の夢を見たい、見せたいと思っております。

最後になりましたが、在職中にお世話になった方々からの返しよのない多大な御恩にこの場をかりて感謝申し上げます。今後の精進をお誓い申し上げます。本当にありがとうございました。



左から筆者、柳井、水上。プリストルにて。

福田 良一 京都大学 学際融合教育研究推進センター 特定准教授  
(前 理論・計算分子科学研究領域 計算分子科学部門 助教)



## Acknowledgements

ふくだ・りょういち / 1996年京都大学工学部卒、2003年京都大学大学院工学研究科合成・生物化学専攻博士課程修了。京都大学21COEリサーチフェロー、量子化学研究協会研究員を経て、2009年5月より分子科学研究所助教（江原グループ）。2016年5月より現職。

私は分子研でちょうど7年間過ごさせていただきました。その間、江原先生をはじめとした先生方、中村所長、大峯所長、川合所長、技術職員や事務スタッフの皆さま、研究会やワークショップに協力してくださいました諸先生方や学生さん、そのほかにもたくさんの皆さまの支えにより研究者として、また社会人として成長させていただきました。ありがとうございました。

7年前、決して若くはない新人助教として分子研に採用された頃の私は、今思い出しても恥ずかしいほどの世間知らずであり、自身の狭い専門領域に閉じこもり、少なからず勘違いしていたと思います。分子研には理論・計算だけでも多様なバックグラウンドを持った第一人者が揃っており、また、当時進行していたスーパーコンピューターのプロジェクトに関わる所内外の多種多様な研究者との交流から、自身がこれまで生きてきた世界の狭さに気づか

されました。また、科学者として研究を続けてゆくことの厳しさや我が国の科学界の難しい状況を知り、謙虚でありながら自分を信じる事の大切さを知りました。その一方で、多くの先生方、特に実験科学者の方々との共同研究を通じて、自身の研究の科学的な位置づけや今後研究を発展させるべき方向性を教えていただきました。

国際的な共同研究、国際交流の機会を多く得たことは大変ありがたいことでした。特にイタリア、フランス、タイ、インド、アメリカ、中国の先生方との交流、共同研究は、自身の国際的な価値を知る機会となり、人間的に成長させていただくとともに研究者として活動してゆく上での自信となりました。

スーパーコンピューター以外にもいくつかのプロジェクトに参画させていただき、普段は決して交わらないような分野の先生方との交流から、サイエンスに対する夢と人類社会の進歩に

貢献する喜びを教えていただきました。放射光分野、宇宙科学、国立天文台、核融合研の先生方からは、宇宙・生命や進化といった課題に自身も貢献できる可能性があることを教えていただき、科学者としての大きな夢を新たに得ることができたように思います。触媒化学の先生方からは、喫緊の社会問題の解決に科学者として関わる使命と問題解決に貢献する喜びを教えていただき新たな活躍の場を与えていただきました。おかげで、新しい職を得ることもできました。

簡単に振り返っただけでも、本当に多くの方々に育てていただきました。今後とも謙虚さを忘れずもう少し成長してゆきたい、分子科学に貢献したいと思っております。最後になりますが、私と妻との出会いの場を提供していただき、人としてそして親としての喜びを得る機会を作って頂いた方に感謝いたします。



**西山 嘉男** 金沢大学大学院自然科学研究科物質化学専攻 助教  
(前 光分子科学研究領域 助教)

## 分子研での5年間



にしやま・よしお / 2006年京都大学理学部理学科卒業、2011年京都大学大学院理学研究科化学専攻博士課程修了(博士(理学))、同年分子科学研究所特任助教、2016年3月より現職。

2011年の5月より約5年間、分子研に在籍し、今年の3月に金沢大へと移りました。研究を指導していただいた岡本裕巳教授をはじめ岡本研究室の皆さま、そして光分子科学研究領域の他の研究室の方々には大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

岡本研究室では、自分が希望していた研究テーマをさせていただくことができ、幸いなことに分子研を出るころにはなんとか成果を出すことができました。中でも、大学院を出てすぐの

私にとっては、自分でじっくり考え試行錯誤しながら研究テーマを進めていける環境にいたことは、研究者として本当にいい経験になったと感じています。また、研究に専念できる環境にいたおかげで、自分の専門以外についても勉強でき、今後の研究についてもよく考える時間をもつことができました。こうした分子研で培ったことを、金沢大での研究や学生の指導に生かしていきたいと考えています(とはいえ、現実には授業やなんやで結構あわただしく、分子研での生活を懐かしいなと思う

ことも……。ちなみに、金沢に来て良かったのは、やはり食べ物(特に、お寿司)が旨い、ということです。ぜひ皆さまお越しく下さい。)

最後になりますが、5月の中頃に開催された光マニピュレーションの国際会議で分子研在籍時の研究について発表する機会があり、幸いなことに賞(The OMC Outstanding Award)をいただくことができました。改めて感謝を述べさせていただきます。